



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2009年（平成21年）1月15日号 No. 1451

目次

■ 2009年の日ロ経済関係を展望する	遠藤 寿一 1
■ 統計速報	9
2008年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／9	
■ トピックス	10
日清食品がロシア最大手に出資／10	
横浜ゴムがロシアにタイヤ工場建設へ／10	
INAXがロシアに販売代理店を新設／10	
ユニ・チャームがロシアの新工場建設を開始／10	
■ エトセラ	11
『調査月報』2009年2月号特別先行配信のお知らせ／11	
「日本キルギス・ビジネスフォーラム」のご案内／12	
メンバーズ・ブリーフ「APEC2012年に向けた沿海地方の開発展望」／12	
「ロシア極東ビジネスセミナー（浜松）」のご案内／12	

2009年の日ロ経済関係を展望する

ロシアNIS経済研究所 所長

遠藤 寿一

はじめに

1990年代も後半になると、21世紀はどのような世紀になるかを予言するような論文が多くなり、資本主義の未来はあるかなど活発な議論が高まっていた。

冷戦構造の崩壊、ソ連邦の解体から米国の一極支配が続いてきたが、この先どうなるか、先進国に代わって新興国の勢力が21世紀の世界の実質的リーダーになるといった話題が粗上りのついていた。21世紀もスタートして8年が過ぎ、今回の金融危機から始まった世界同時不況は100年に一度と言われているように、過去の常識を覆すような未知の世界に人類を導く大転換期となる予兆なのかもしれない。

本稿では、世界経済のこのような厳しい環境を踏まえながら、ロシア経済の現状と見通しについて概観し、そのうえで2009年の日ロ経済関係を展望することとする。